かわじま☆未来塾
まちづくりプランニングチーム

政策提言書

令和３年２月

1　はじめに

　この報告書は、私たち「かわじま☆未来塾　まちづくりプランニングチーム」が、現在、町で策定している第６次川島町総合振興計画への政策提言について検討を行ってきた内容をまとめたものです。

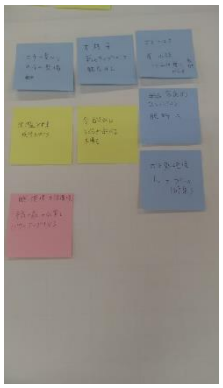
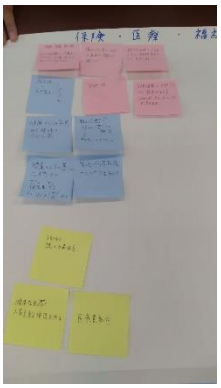
　「川島町が好き」という気持ちでかわじま☆未来塾の活動に取り組んでいますが、いざ10年間のまちづくりを考えるとなると、検討すべき範囲が非常に広く、町政運営の難しさをほんの少しですが実感しました。

　一方で、町の情報を幅広く知ることができたことや、他の塾生と一緒に議論する時間はとても充実したものでした。

　こうした全7回の活動で、私たちが住む川島町がよりよい町となるよう検討を重ねてまいりましたので、本書にて報告させていただきます。

開催概要

開催日	参加者数	開催場所
７月４日	５名	川島町役場
８月８日	２名	
９月５日	３名	
９月１９日	４名	
１０月１７日	４名	
１１月１４日	３名	
１２月１９日	４名	
全７回	計２５名	

２　10年後の川島町の理想像

10年間のまちづくりに関する意見をまとめるにあたり、まず、現行の総合振興計画における政策分野ごとに「１０年後、川島町がどのようになっていたら良いか」について話し合いを始めました。私たちが住む川島町の１０年後について、これまでしっかりと考えたことはありませんでしたが、塾生みんなで議論する中で、普段とは違う視点で川島町を見つめる機会となりました。

私たちが考える１０年後の理想の状態は次のとおりです。

①保健・医療・福祉

- 医療に対する知識が充実している。家庭内で手当てや健康づくりができる。
- 障がい者が活躍する場が広がっている。
- 高齢者が生きがいを持って活躍する場がある。
- 医療費に対する不安が軽減されている。
- 子育てに対する希望がある。（不妊治療、子育て支援）

②生活環境・自然環境

- ゴミとされていたものが再資源化され、ビジネスが生まれている。
- ゴミ処理エネルギーが生活に循環されている。
- ゴミ処理の正しい知識を町民が理解している。
- 子どもたちが安心して遊べる公園がある。

③都市基盤・土地利用

魅力的な土地利用が行われている。

町外への移動がスムーズに行われている。

町民と町が協働で生活道路やＵ字構が整備されている。

空き家が資源としてまちづくりに活かされている。

④農業・商業・工業・観光

農産物や特産品のブランド力が上がっている。

観光農園に多くの人が訪れている。

オーガニック農業に取り組む生産者が増えている。

多方面から就農者が集まり、農業が継承されている。

農業法人により、農業の効率化が進められている。

知名度の高い商業施設により、多くの方が訪れている。

⑤生涯学習・教育

多言語教育が充実し、世界にはばたく子どもが育っている。

最先端技術による教育が充実している。

障がいの有無に関わらず、すべての子どもが質の高い教育を受けている。

多くの町民が文化・スポーツに携わり、次世代に伝承されている。

⑥自治・コミュニティ（防災）

災害に強いまちづくりが進んでいる。（堤防など）

災害時に活躍できる町民が多く、安心感がある。

ワーキングスペースやサテライトオフィスなどにより、働ける環境が充実している。

町民一人ひとりに合ったコミュニティが形成されている。

⑦行財政運営

町民一人ひとりに行き届いた住みやすいまちづくりが進んでいる。

町民が町政に携わる仕組みがたくさんある。（未来塾など）

マイナンバーカード普及率向上など、デジタル化の最先端を走っている。

情報発信・情報共有が充実し、協働の意識が高まっている。

3　理想の川島町のために（提言）

次に、理想の状態を実現するために川島町が取り組むべきことを、第６次計画の大きな柱となる4つの戦略目標「まもる、つなぐ、つくる、そだてる」の項目を中心に整理しました。また、計画策定に向けて考慮していただきたい事項についても、その後に添えさせていただきました。

川島町の状況を学び、実現可能な提言となるよう話し合いを重ねた結果、今後のまちづくりについて次のように提案します。

1　まもる 「未来に続く安全・安心な暮らしをまもる」

災害に強いまちづくり

一昨年の台風19号をはじめとした自然災害や、今般の新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、私たちは社会情勢に不安感を抱いています。私たちがこの川島町で安心して過ごせるよう、町民一人ひとりに行き届いた災害対策を行ってください。

災害時は、近くに住む人たちが頼りになります。地域で地域住民を守ることができるよう、防災力強化に向けた取組が求められます。

すべての方が安心して過ごせる環境

障がいを持つ方や高齢の方、外国籍の方など日常生活に支援が必要な方が、川島町にもたくさんいます。これらの方々をはじめ、すべての方が安心して暮らせるような制度整備や周知を図ってください。

自慢の自然を未来に

豊かな自然は私たち川島町の自慢です。この自然が20年、30年先の未来へ続くよう自然環境を守る取組を行ってください。自然を守るためには、循環型社会の構築が不可欠です。適正なごみ処理など、未来世代に負担がかからない長期的な視点で環境保全に力を入れてください。

伝統文化を次の世代、またその次の世代へ

歴史ある川島町には、多くの伝統文化が存在しています。これらは先人たちの努力により継承され、今日まで私たちのアイデンティティとなっています。

これまでの歴史を未来へ継承するのは我々の役目です。伝統文化を守るための取組を行ってください。

2　つなぐ　「未来に向けて人と人をつなぐ」

活気のあるコミュニティづくり

ライフスタイルが多様化した現代において、コミュニティの希薄化は大きな課題です。コミュニティとは人とのつながりです。町民一人ひとりの人生が豊かなものになるよう、コミュニティづくりの支援を行ってください。

集いの場で出会い、つながる

職場や家庭など日々の生活に追われていると、心安らぐ「サードプレイス」を見つけることがなかなかできません。町の中に集える場所があれば、そこが憩いの場となり、出会いが生まれます。町民が川島町へ愛着を持つきっかけづくりのためにも、集いの場が必要です。

町と町民の効果的なコミュニケーションを

協働のまちづくりのためには、町と町民のコミュニケーションを充実させる必要があります。まずは多種多様な情報媒体を活用し、町の情報を正確かつスピーディに発信してください。また、町民の声が町に届く仕組みづくりにも力を入れてください。

3　つくる「未来へ輝く稼ぐ地域をつくる」

伝統的な農業を新たなステージへ

農業は川島町の伝統産業です。しかし、近年の生産者減少が示すように、必ずしも魅力的な仕事にはなっていません。農業の活性化のためには新たな価値を創り出すことが重要です。

そのために、すでに行っている農地集積や法人化の取組強化に加え、オーガニック農業など新しい取組へシフトしていくことを希望します。また、農業に興味を持つ方がチャレンジしやすいような支援も望まれます。

企業と起業、それぞれに支援を

川島インターチェンジ周辺開発により利便性が向上し、町民の暮らしは大きく変わりました。雇用創出という意味でも、企業誘致に対する期待度は高いです。引き続き、積極的な開発により魅力あるまちづくりを進めてください。

また、未来に輝く会社が町内から生まれるよう、施設や土地を活用した起業支援にも取り組んでください。

マイナンバーカードによる新たな行政サービス

デジタルトランスフォーメーションが多方面で求められており、川島町役場も例外ではありません。デジタル化による行政サービスの革新は手続きを効率化させ、私たちの暮らしをより便利なものにします。そのためにはマイナンバーカードの普及が不可欠です。積極的な働きかけにより普及率の向上を目指してください。

つくらない勇気

「多くの方が集まる施設」や「賑わいを生む施設」は、まちづくりにおいて魅力的なものです。しかし、人口減少時代の本格的な到来により、将来的な財政面の不安は拭えません。今後、公共施設の老朽化により新たに施設を建てる可能性があるかと思いますが、近隣自治体との連携強化により目的を達成できるのであれば、「つくらない」勇気も必要です。同時に、歳出のスリム化を図るため、既存施設を「こわす」ことにも挑戦してください。

4　そだてる 「未来へはばたく人財をそだてる」

新しい考え方による新しい教育

　ＧＩＧＡスクール構想によってＩＣＴ教育は加速化され、デジタル機器を活用した学習は当たり前の時代となります。また、教育をめぐる考え方も年々変化しています。この流れに遅れぬよう、新しい考え方を積極的に導入し、世界で活躍する子どもたちを育ててください。

大人世代への教育も

　変化の激しい時代を生き抜くためには、大人になっても学び続けることが重要です。日々の生活に必要な医療の知識や多言語コミュニケーションなどを学べるよう、図書館の充実を始めとした学習機会の提供に取り組んでください。

文化人が町を輝かせる

　活気があり、魅力的なまちには元気な文化人がいます。川島町の豊かな自然などの地域資源を活用し、文化人が育つ環境をつくってください。文化人の活躍により新たな伝統が生まれ、町民のシビックプライドが醸成されます。

子育てが楽しいまち

　少子化に立ち向かい、少しでも多くの子どもたちの元気な声を響かせるため、引き続き、子育て支援に力を入れてください。子育てニーズは年々変化します。変化に迅速に対応し、安心して子どもを育てられるまちであり続けてください。

　また、町内に勤務する保護者が安心して働けるよう、企業の託児サービスの強化に向けた働きかけも重要です。

5　総合振興計画の策定に向けて

未来に希望の持てる計画を

住みやすいまちを未来に継承していくためには、今の状態を維持していくことも重要です。維持にも相当な力が必要であると考えます。しかし、変化の激しい時代においては、常に進化し続ける姿勢が最も重要です。本計画の策定にあたっては、町民が未来に希望が持てる計画となるよう努めてください。

戦略目標の優先順位

希望にあふれたまちづくりを進めていくためには、どこに力をかけるかが重要です。そこで私たちは、本計画の策定にあたり、戦略目標の優先順位を次のように考えていただきたく提案します。

①そだてる
②つくる
③つなぐ
④まもる

これからの川島町を創り上げるのは若い世代、子どもたちです。10年後、20年後の川島町が活力のある元気なまちとなるためには、今この段階から熱意を持って「そだてる」必要があります。

また、新たな価値の創造も町民を元気にし、シビックプライドが醸成されていくと考えます。まちに元気の源を数多く「つくる」ことも、魅力あるまちづくりには重要な取組です。

以上の理由から、私たちは上記の優先順位で政策を推進していただきたいと考えます。

4　かわじま☆未来塾からの事業提案

新しい総合振興計画への政策提言を考える中で、今回の活動で学んだことなどを基に、具体的な事業についても検討しました。実効性のある事業かどうか心配ではありますが、次のとおり提案させていただきます。

①有機農園 プロジェクト

内容	有機農業を学んだ方を誘致し、町内の空き農地で普及を図る。また、有機農業に興味のある方への研修等も行う。規模が拡大してきたら、観光農園化を図る。
効果	農業の新たな価値創造。農業就業者の増加。農産物のブランド化。
事業費	用地買収規模による

②つどいの場 寺子屋 プロジェクト

内容	子どもや若い世代を対象に、空き家などを活用したつどいの場をつくる。定期的に学習会を開催し、家庭の医学など暮らしに役立つ学びの場を提供する。
効果	コミュニティの形成。生涯学習の推進。
事業費	空き家改修規模による

③障がい者の暮らし支援プロジェクト

内容	障がい者が家族の支えがなくても暮らしていける体制を整える。近隣自治体との連携などにより体制整備を図る。
効果	障がい者やその家族が安心して暮らすことができる。
事業費	施設を設置する場合は約4,000万円

④児童発達支援プロジェクト

内容	発達障害や発達に遅れのある子どもたちが学び、自立を支援する体制を整える。近隣自治体との連携などにより体制整備を図る。
効果	発達支援が必要な児童やその家族が安心して暮らすことができる。
事業費	事業規模による

⑤ゴミ処理場 SDGs プロジェクト

内容	ごみ処理場のエネルギーを活用し、循環型社会を具現化する複合施設を整備する。スポーツジムや認定託児所、カフェを設置する。資源化したごみを使った農園を設け、観光農園や貸農園として機能させる。
効果	複合化による効率的な事業展開。町民の健康増進。雇用創出。
事業費	約63億円（PPP/PFIにより実施）

⑥ストロベリーアイランドプロジェクト

内容	いちご栽培にチャレンジしたい方を募って法人化し、効率的に農業が進められる専門商社を設立する。新品種の開発に力を入れ、若い世代の女性や主婦層を雇用する。コンセプトは「ＫＡＷＡＩＩ」
効果	農産物のブランド化。雇用創出。町のＰＲ。
事業費	約1,400万円

⑦アーティスト誘致ＳＷＡＮプロジェクト

内容	空き家や旧校舎をアトリエや芝居小屋として活用してもらい、若いアーティストの活躍を支援する。アーティストの作品とともに町のＰＲを図る。
効果	町のＰＲ。アーティストの育成。
事業費	空き家や旧校舎などのスペース提供

５　おわりに

今回の活動を通じ、町で行っている施策についての多くの学びがあり、また、「変化の激しい時代において、これからの川島町はどうあるべきか？」を深く考えるきっかけとなりました。同時に、「川島町でこんなことをやってみたい。」「こんなことができたら楽しい。」という意欲も湧いてきたところです。

今回の活動にとどまらず、今後の川島町が活気に満ち溢れたまちとなるよう、引き続き、積極的に町政に参画してまいります。

本書にて申し上げた提言が、今後のまちづくりの一助となるよう、ご検討をよろしくお願いします。

令和３年　２月　２６日

かわじま☆未来塾
まちづくりプランニングチーム

笛　木　　由　美（平成30年度入塾）
鈴　木　　恵　美（平成30年度入塾）
猪　鼻　　彩　子（令和2年度入塾）
小　西　　緩　奈（令和2年度入塾）